

旧西大柱

姫路城の天守は東大柱、西大柱として知られる2本の巨大な柱で支えられている。25メートルの高さに根元部分は1メートル近い幅の柱が城の複雑な格子構造をしっかりと支え、1本が100トンもの木材、粘土、漆喰の重量に耐えている。

ここに展示されているのは元々城で使われていた西大柱である。350年の使用を耐えて1960年代初期に取り替えられたものである。柱は2本の巨木-上部は榎、下部は樅から作られ、城大工の素晴らしい技術によって帯鉄巻きと鉋釘止めで二本継ぎされている。

元々、取り替えられた柱は東大柱を参考に、1本の檜材を使用する予定であったが、西大柱として選ばれた巨木は山から運び出される途中で折れてしまった。そこで技術者たちがもともとの柱と同じように、2本の柱を天守の三階で継ぎ合わせる対応をして現在の西大柱を完成させた。